

第3回 総合計画策定に係る柏崎市総合計画審議会 議事概要

1 日 時 令和7（2025）年3月24日（月） 午後3時00分から午後5時00分まで

2 場 所 柏崎市役所1階 多目的室

3 出席者

- (1) 委 員 樋口秀会長、柿崎啓子副会長、相田浩委員、岡田和久委員、片岡哲雄委員、権田恭子委員、嶋岡和美委員、霜田直也委員、遠山みちる委員、中野博幸委員、長谷川弘美委員、丸田秋男委員、吉田匡慶委員
- (2) 庁 内 総合企画部長、財務部長、市民生活部長、福祉保健部長、子ども未来部長、産業振興部長、都市整備部長、上下水道局長、消防長、教育部長、議会事務局長、防災・原子力課長
- (3) 事務局 企画政策課長、同課長代理、同企画係員

4 会議資料

【事前配布】

- ・ 次第
- ・ 資料1-1 柏崎市第五次総合計画 柏崎市第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略総括（案）
- ・ 資料1-2 市民アンケート、市民ワークショップ、時代潮流から抽出した主な強み・弱み
- ・ 資料1-3 市民アンケート自由記述分析（共起ネットワーク図）
- ・ 資料2 基本理念・将来都市像・基本方針の考え方
- ・ 資料3 土地利用構想の策定について
- ・ 資料4 土地利用イメージ図
- ・ 資料5 分野別施策の基本方針に係る主要施策シート
- ・ 参考 主要施策シートの見方

【当日配布】

事前配布資料のほか、

- ・ 席次表

5 会議概要

(1) 開会

(2) 会長挨拶

だいぶ春めいてきて、出会いと別れの季節がやってきた。先日、新潟工科大学でも卒業式を終えたが、市外に出ていった学生が、ふと柏崎を思い出し、柏崎っていいところだったなと思えるような柏崎市にしたい。そして、またUターンで戻ってきけるような魅力あるまちづくりをしていきたい。

本日は、そのための重要な会議となる。忌憚のないご意見をいただきたい。

(3) 議事

委員の発言は次のとおり

**【柏崎市第五次総合計画 柏崎市第2期まち・ひとしごと創生総合戦略の総括（案）
市民アンケート、市民ワークショップ、時代潮流から抽出した主な強み・弱み
市民アンケート自由記述分析（共起ネットワーク図） について**

資料1-1、1-2、1-3】

（資料1-1及び1-2に沿って事務局が説明、資料1-3を中野委員が説明）

- 会 長 : 資料1-1のスライド3の住民基本台帳のデータの基準日はいつか。
- 事 務 局 : 各年1月～12月までの数値となっており、12月末時点の人口である。
- 委 員 : 資料1-1の総括では、気になる評価もあるが、よくまとめられていると思う。
気になる点として、20ページの全体総括で、重点戦略の目標指標はいずれも7割から8割達成しており、施策が着実に実行されているが、人口減少の抑制には結びついていないというネガティブな総括になっている。この表現は、少し飛躍しすぎではないかと思う。分野別の目標指標は、行政の縦割りの仕組みに合わせて設定されたものであり、それらを束ねた分野横断型の取組である重点戦略の達成状況を評価するという一段落を加えていたら、もう少し具体的に因果が把握できたかもしれない。次期計画策定に向けた教訓である。今後は総合計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略を一体化させていくということなので、総合計画で重点戦略として扱った部分を総合戦略に置き換えていく形で、指標も含めて丁寧に作り込んでいけるといい。
また、全体総括に「日々の生活が不便だから」とアンケートに回答した市民の声を重く受けとめなければならないとあるが、そのとおりである。魅力的な商店街やにぎわいづくりはもちろん必要だが、普段の買い物など日常生活を維持するための利便性が、中心市街地の「まちなか」でも低下しているという現実を認識することが大切である。
- 委 員 : 資料1-1で、施策を着実に実行したが、人口減少の抑制に結びついていないとあるが、人口減少抑制に対する施策は、何か実行したからといってすぐにそれが成果として数字に表れるものではないと思う。総合計画では、目先の結果に惑わされずに、着実に施策を行っていくことが大切である。とはいえ、結果を鑑みると、この4年間やってきたことが少しずつ進んでいたのか。効果が出るまで時間がかかっているのか。また、取り組んでいること以上に人口が減っていくスピードが上回り、追いついていないのか。理由によって表現は変わってくると思うがどうか。
- 事 務 局 : 資料1-1のスライド3で少し触れているが、人口の自然動態については差が広がっているが、社会動態については差が縮んでいることから、こうした部分には成果が少し出てきていると感じる。一方で、人口減少の抑制そのものに目を向けると、自然動態の方に大きく影響されており、差が広がっている状態である。子育てと産業イノベーションは、どちらも重要な戦略であり、施策を着実に推進してきた成果が表れてきているが、それ以外の分野にもやるべきところがあるのではないかと感じている。
- 委 員 : おそらく、この社会増減の部分を重点的に進めてきて、数字を見る限り少しずつ成果が出てきているが、自然増減については、まだ出生数が上がらず、できていない部分があるのだと思う。取り組んできたことと、まだできていないことを分けて記載すると、市民にも分かりやすいのではないかと思う。
- 事 務 局 : 子育て施策も着実に推進してきて、環境は以前より良くなってきていると思

う。最終的に、少しでも数字に結びつくような考え方で総括し、第六次総合計画の策定につなげていきたい。

【基本理念・将来都市像・基本方針の考え方

資料2】

(資料2に沿って、事務局が説明)

【将来都市像の案】

案1「躍動あふれるまち かしわざき」

案2「笑顔つながるまち かしわざき」

案3「未来を拓くまち かしわざき」

案4「energyみなぎるまち かしわざき」

会 長 : 一人ずつ順にご意見を伺いたい。

委 員 : 将来都市像を、基本理念から落とし込んでいるという考え方はいいと思う。将来都市像を言葉として決定するにあたり、時間軸はどのぐらいを考えているか。これを実現するのが4年後なのか8年後なのかによって、施策のスピードが違ってくと思うので伺いたい。

事 務 局 : 総合計画の基本構想の部分にあたるため、8年間の将来都市像として考えていただきたい。

委 員 : チャレンジという意味では、案3がしっくりきている。

委 員 : 案1がしっくりくる。先ほどの共起ネットワーク図の中でも若者というワードが多く出てきており、総合戦略の最重点目標も、「若者と女性が誇りと愛着を持って暮らす」であった。それらを踏まえると、「若者」、「女性」というキーワードを、どう取り扱うか、委員の間で議論があってもいいのではないかと思う。

委 員 : 案2がいいと思う。最近のまちなかの様子は笑顔が少なく、自分だけがよければいいという人が多いのではないかと感じる。子どもたちの未来のためにも、笑顔があふれるまちになってほしいと思う。

委 員 : 決めかねているが、柏崎市のこれからの将来都市像として出ていくものとなると、「柏崎」の部分了他市に置き換えても通じる将来都市像ではなく、柏崎ならではの言葉を使ったオリジナルのメッセージが伝えられるといいと思う。

委 員 : 以前、柏崎市の療育が充実していて子育てしやすかったと話したことがあるが、小さい頃は不便さを感じていなかったことでも、成長し社会に出る年代になるにつれて、不便さを感じることもある。希望の企業に就労できるのは、実際はほんの一握りであり、どうしても市内での就労が難しく、卒業前に市外へ引っ越した人もいることを知ってもらいたい。障害があってもなくても、誰もが幸せに住み続けられるような柏崎になる方針を考えてもらいたい。

委 員 : 将来都市像の案が複数出ているが、どれ一つ欠けてもいけない重要なものだと思う。やはり、市としての強み・弱みは何かとはっきりさせた中で、強みは伸ばしていくことが、柏崎市としてのブランドにもなる。

一方で、人口減少の問題はコントロールしきれない部分もあるが、どのように人口減少を抑えていくか明確にしながら、計画に落とし込むといいと思う。

委 員 : 資料2のスライド2の図で、基本理念はまちづくりの根底にあると記載しているにもかかわらず、一番上に基本理念が示してあるのがしっくりこない。基本理念は下に置き、その上に基本方針が整理され、将来都市像が最後の頂点のところで表現されるのがわかりやすいと感じた。

第五次総合計画と第六次総合計画の基本方針の違いについて、例えば、「生活・安全・環境」の章があるが、第五次総合計画では、「防災・生活・環境」であり、「防災」という文言がなくなっている。市民アンケートの結果等を見ても、災害などの危機管理や原子力発電所の安全対策は、多くの市民が重要だと考えている。それを踏まえると、原発を抱えて脱炭素に取り組む先進的な自治体として、防災には積極的に取り組んでいただきたいというのが強い希望である。

また、産業・エネルギーについては、第五次総合計画では産業と雇用であった。人口減少や少子高齢化の問題を考えると雇用は大変重要だと思うが、それを落とした理由は何か。エネルギーは、生活のインフラや産業の1分野として見ていたが、第六次総合計画で大きく取り上げたのは、市のどういった考えからか。

5つの章立ての中で、市民が指摘しているまちの課題が適切に反映されているか見たときに、日常生活の利便性を維持する「商業サービス」と「地域交通」の位置づけが低いという印象を持つ。

将来都市像については、ニュアンスとしては、未来につながるまちがイメージしやすいような、明るい将来都市像にしたい。「未来を拓く」とまでは言わなくても、「未来を育むまち柏崎」など、住んでいる人が希望を持って住み続けたいと思えるようなまちにしたい。

事務局： 「生活・安全・環境」は、分野を表した言葉である。第1章には様々な分野が含まれているため、どのワードを選ぶか難しい部分もある。防災以外にも交通安全などの分野も含まれているため、第六次総合計画では、より広い「安全」という言葉を選んだ。

また、「産業・エネルギー」については、これまでエネルギーとともに歩んできた歴史等もあるため、より柏崎らしさを出す意味で、エネルギーという言葉を見出しとして使っている。

しかしながら、委員からのご意見も重要な視点であるため、どのような分野の表し方が適切なのか検討したい。

会長： 第五次総合計画で6章立てになっていたところを、第六次総合計画では見直し、5章立てに組み換えたところと説明いただいた。中身を見ると、引き継いでいるものも多くあるが、表に出る大項目に、防災や雇用、交通といったワードが隠れてしまっている部分は、今後また議論できればと思う。

委員： 「防災」という言葉の持つ意味が、他の市とは違うため、柏崎らしさや強弱がもう少しあっていいと思う。

委員： 将来都市像について、先ほども意見があったように「柏崎」を他市に変えても通じるというのは同感である。4つの提案の中で、案4はenergyをアルファベットにしているが、原発などの特定の企業だけでなく、脱炭素や市民のエネルギーシユな部分、未来志向で攻めていく感じをエネルギーやエナジーとするのがいい。章立てのところで柏崎らしさを出してはいるが、将来都市像でばやけさせている。広い意味を加えた上で、「躍動」や「未来」などのワード入れて、1つの産業に委ねているわけではないことを表すと、看板の中身の部分との整合性も見られるのではないかなと思う。

委員： 「〇〇なまち柏崎」ワンフレーズで考えるのは難しいと思う。そこにこだわらなくてもいいのではないかな。とはいえ、長すぎるものも何が言いたいかわからなくなる。あまりに総花型はよくないが、一言で言い表すのは難しい。

先週大阪に行ってきたが、あの人の数がまさにエネルギーなのではないかと感

じた。人口減少下にあり、駅前に人がいない本市で、「エネルギーみなぎるまち」といったときに、少し無理があるのではないかと感じる。

こうした将来都市像やキャッチフレーズは、これまでも市で設定していたと思うが、それらはその時代を反映しているのではないかと思う。議論の参考として、これまでどういったキャッチフレーズを掲げてきたのか、その変遷が分かれば資料として見てみたい。

委員： 案3がしっくりくる。8年前は、2025年に柏崎市にこんなに人がいないと思わなかった。世代交代もしていないし、がつがつしている若者もない気がする。少し保守的にはなるが、未来を築くといった前に向けたベクトルだけではなく、今ある子育て、医療、産業などを堅持するというメッセージも入れたほうがしっくりくる。生活基盤をしっかりと守った上で、どのような長所を伸ばしていくか。あることが当たり前である生活基盤ですら、意識して守っていかないといけないというところを、もう少しメッセージとして入れてもいいと感じた。

委員： 本日、看護師の国家試験の合格発表があり、20名が合格し、この春から働き始めることとなった。この若い人たちが定着するには、どうしたらいいか。何か売りになるようなものがないかと常に考えているが、なかなか見つからず永遠のテーマになっている。唯一、原子力防災に関しては他の病院が手をつけていないため、教育として、原子力防災や他の防災に関しての専従の看護師を作り、県内の厚生連病院の看護師と協力していこうと考えている。

また、人口減少問題については全国的なものであるが、活力という意味では、少子高齢化が進んでもみんなが笑顔でいられるよう、例えば「未来を切り開き、笑顔つながるまち」など、人口減少・少子高齢化でも、柏崎市で幸せに生活できるというメッセージがあるといいと思った。

会長： 案2と3を足したようなご意見だと受けとめた。

委員： 個人としては、基本方針に書かれた5つの分野とそれぞれの主要施策のめざす姿は、非常にイメージを共有しやすい形でまとめていただいたと感じた。

将来都市像の案4で、エナジーなのかエネルギーなのか、あえて英語で表記した意図があれば教えてもらいたい。

自分自身のことになるが、子どもが市外でeスポーツを勉強しているが、定期的に柏崎に帰ってきてくれる。理由を尋ねると、柏崎は海も山も身近で、アナログの部分がきちんとあり、自分のバランスが取れるということだった。これは長岡市ではできないことで、住んでいる私たちはそれを資産と思わないが、柏崎市の恵まれている部分だと思った。柏崎にUターンして感じたことは、距離感がすごく心地いいということである。都会では経験できない距離感で人と話ができることや、誰かが何となく気にかけてくれる距離感を感じるということが非常に多くあり、若者がそういう気持ちを持って生活できると、活気のあるまちになるのではないかと思う。そうした理由から、やはり「未来」と「若者」というキーワードを入れるといいのではないかと思う。

事務局： 「Energy」のイメージとしては、記載の3点であるが、事務局の思いとしては、少し個性を出し、「若者」という言葉が先ほどからキーワードとして出てきているが若者に届くようなメッセージをどこかに取り入れたいという思いから「エナジー」を横文字にしている。

(資料3、4に沿って、事務局が説明)

委 員 : 都市計画審議会に委員として出席しており、立地適正化計画に基づいたコンパクトシティを目指す構想も市として持っていると思うが、立地適正化計画と総合計画に基づいた土地利用構想がどのようにつながっているのか、会長にフォローしていただきながら関連性を伺いたい。

委 員 : 総合計画が最上位計画であるため、それに従って都市計画が紐づいている。都市計画が先行していることもあるが、それに基づいて総合計画をひっくり返すようなことはしないようにすべきである。都市計画は都市計画区域があるが、総合計画は柏崎市全域が対象となり重要度が高い。そういう意味でいうと、土地利用イメージ図に、どこまで詳細に描くかは、少し議論になると思う。

スライド18で、今後予定されている産業団地や交通結節点などの新たな拠点整備に対応すると書かれているが、それがこのイメージ図のどこなのかは、少し読み取りにくいと感じる部分ではある。

事 務 局 : 会長のおっしゃるとおり、総合計画が最上位計画になる。立地適正化計画との間で齟齬が生じた場合、立地適正化計画を修正することになるが、現時点では齟齬はないと考えている。

委 員 : 土地利用イメージ図は寂しい気持ちになるが、これが現実である。集落環境ゾーンは、今後ますます住みづらくなるため、都市サービスゾーンになるべく移ろうというメッセージになっている。立地適正化計画を見ると、旧市庁舎跡地と駅前利活用が街中を活性化させ、居住人口を誘導するための事業として示されている。セントラルガーデンなど進んでいない事業もあるが、駅前のホテル建設は楽しみにしている。ただ、肝心なのは、この2つの地区の間に位置する「まちなか」の整備案が、今の立地適正化計画に示されていない。この総合計画が最上位計画なのであれば、都市計画でそこを考えてもらう方向を、示したらいいと思う。

個人的な意見としては、「まちなか」に商業だけでなく、多様な世代の人々が暮らす住宅の機能を入れていくことが大事だと思う。立地適正化計画では、若者と子育て世代を呼び込むことに主眼が置かれているが、今はまだ元気な中高年が、免許を返納して除雪がきつくなった時でも、生活の質を下げずに暮らせる居住環境があれば、都市サービスゾーン（まちなか）への転居を求めて、柏崎に住み続けることを前向きに考える人は少なくないと思う。高齢者になっても安心して住み続けられることは、実は、若者や子育て世代を引きつけることにつながるのではないと思う。生活者が増えれば、にぎわいも生まれてくるだろう。

また、駅前に柏崎限定のブルボン商品や市内の菓子店の人気商品を販売する「道の駅」ならぬ「駅の前」スイーツ・ショップができて、えんま市やぎおん祭り時の来訪者やビジネスで駅を利用する人が立ち寄ることができれば、それが起爆剤になり、まちの活性化につながると思う。

委 員 : ブルボン本社では、展示はしているが、売っているのは自動販売機だけである。本社でしか買えないものなど話は出るが、生産ロットの問題など、なかなか簡単には実現しない部分がある。まちを盛り上げる策は、引き続き検討していきたい。

事 務 局 : スライド15でもあるように、空き地空き家の利活用を推進していきたい。
また、集落環境ゾーンについては、決して軽視しているわけではなく、最近では、地域おこし協力隊などの取組も見られる。コミュニティセンターも、地域づ

くりや防災の拠点であるため、それらを踏まえて、集落環境ゾーンでも生活環境の維持を図っていく。

委員： 駅を活性化することが柏崎市にとっていいのか、なんとも言えない。駐車場がない中では難しいと思う。また、集落環境ゾーンも、点々としたままなのか、ある程度まとめていく予定があるのか。中心市街地は行政主導でお金を出して道路整備してやっていくのかそれとも民間を誘導してやるのか。真剣に考えないと厳しいと思う。

事務局： 中心市街地についてセントラルガーデンや中心市街地のにぎわいづくりは必要であると考えており、今後検討する方向であることはご理解いただきたい。

会長： これまで、人口は減っても世帯数は増えていたが、2015年頃をピークに減りだした。空き家が目につくようになり、法律を改正し、行政が除却し始めたが、空き家がどんどん増えている。

一方で、新しい住宅のニーズはまだある。これから柏崎で定住したいという若い世代の方も、やはり新しい住宅に住みたい方が多いため、そういった方たちにどこに住んでいただくのかをちゃんと提示する必要がある。その中で、都市サービスゾーンなのか、集落環境ゾーンなのかという話になってくるが、この拠点が点のように見えるので、もう少し表現を修正してもらいたい。

人口が減ってもこの地域拠点はなくなるわけではない。ただ、大きくなるわけではないため、集約しながら拠点と都市サービスゾーンをどうつなぐかということで、交通軸が描かれている。主要な一般国道しか載っていないが、主要地方道も載せて、生活を維持していく方向性を示すといいと思う。

また、エネルギーのまち柏崎というのであれば、それを示す拠点を、もう少しイメージしやすいように表すといい。

【分野別施策の基本方針に係る主要施策シート(案)について

資料5、参考資料】

(資料5及び参考資料に沿って、事務局が説明)

委員： 資料自体は見やすくまとめられているが、先ほどの将来都市像の案1から案4でも全然違う。この将来都市像がどれになるのかによって、目指す姿や力を入れて取り組む政策は全く変わってくるが、どの将来都市像でも施策のカバーはできると考えていいか。

事務局： 主要施策シートについては、分科会による専門的分野の視点で議論していただきたいと考えており、それを踏まえて、審議会にこの資料を示している。将来都市像の議論から、施策の変更が必要だということであれば、修正することになる。今後、総合計画の重点戦略についてもお示しする予定であるため、そこにしっかりと将来都市像が反映されていくことも大事な視点だと思う。これがすべてではないことをご理解いただきたい。

委員： 基本方針の主要施策1-1、1-2…の並び順について、原子力安全防災対策の推進が一番先頭にあっているのか。これは、基本的には原子力事業者が取り組むべきもので、何もなければ何もない部分である。そうではなく、1-6のような都市環境と住環境の整備といった社会基盤の整備を一番先に掲げて、そこから枝分かれしていく並びがすっきりするのではないかと思う。分科会委員には、シートの並び順も含め、どのような視点から入っていけば一番しっくりくるのかについても是非検討していただきたい。

委員： 基本方針として分野ごとに5本、柱が立っているが、実は最初に出てくる基本

理念に関連すると、5番目の「住民自治・行財政」という分野は、いわゆる縦の柱であると同時に、基盤となる横軸を刺すものにもなるのではないかと考えている。5本目の柱は「住民自治・行財政」であるが、基本理念に立ち戻ると、市民自治や協働のような横軸を刺す柱として、ネーミングを変えてもいいのかなと感じた。分科会での議論の前に、この考え方について確認したい。

委員：資料3の土地利用構想の策定について、15ページの都市サービスゾーンの都市機能の集積と、16ページの集落環境ゾーンにおける生活の維持と環境保全は、いずれも冒頭に、人口減少下においてもそれぞれの機能を維持するということが記載されている。将来都市像として、人口が減ってもこれを残すということが、すでにこの中で謳われているのではないかと感じた。

事務局：施策の並び順については、確定しているものではないため、分科会をはじめ審議会においても、並び順やネーミングなどご意見があればいただきたい。

また、「住民自治・行財政」について、横軸を刺すような言葉ではないかというご意見については、おっしゃるとおりであるが、コミュニティ関連の記載も含め、この「自治経営」という分野についてしっかり記載することも重要だと考えている。表現で、より適切なものがあれば、継続してご意見をいただきたい。

会長：分科会で、これから専門的に議論された内容が、再度審議会にあがってくる。それを踏まえて、将来都市像を再度議論していきたい。今後の議論については、追って事務局から情報提供があると思うが、先ほども話題になったように、これまでの8年とこれからの8年は大きく違う。8年後の柏崎をイメージしながら、特に、若者が魅力的な生活を送れるような計画を検討していきたい。

(4) その他

次回開催予定 令和7（2025）年6月頃（予定）

(5) 副会長挨拶

最近、TVドラマで「パーソナライズポリティカル」というワードが使われ、インターネット上でも話題になった。直訳すると、「個人的なことは政治的なこと」であるが、意味合いとしては、社会構造に関することは、個人の体験や経験と密接不可分だということである。本日の議論の中でも、身の回りのことや実体験を踏まえてご意見いただいたが、まさにそれが、個人的なことではあるが柏崎市という社会全体で考えるべきことなのだと思う。

審議会における私たちの役割は、とにかく意見を出し続け、市の各担当は、できる限りそれらを掬い上げることであり、改めて本日の議論で感じた。次回の審議会で、分科会の成果を踏まえて議論するのを楽しみにしている。

(6) 閉会

以上